



## アキレギア ウィンキー・シリーズ

学名: *A. vulgaris*

種子粒数の目安: 600 から 800 粒/グラム

### 開花特性と要因

- 耐寒性宿根品種
- 低温処理(バーナリゼーション)が必要
- 日長時間との関係では、低温処理後はデニュートラル
- シングルとダブルの各シリーズの利用が可能
- 花の形がユニークで特徴があります
- 小売店でも人目を引き、もちのよい植物

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しいプラグ用培地を使用する。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は 0.75 mmhos/cm(1:2)とする

#### 播種

288 穴、またはそれよりも大きな容積のトレイに 2 から 3 粒播種する(シングル、ダブルのそれぞれのシリーズによる)。パーミキュライトで軽く覆土する。播種後は殺菌剤を散布する

ステージ 1 - 発芽日数は概ね 7 から 12 日

地温: 20 から 22°C

光条件: 発芽時、光はオプション(任意)

水分: ステージ 1 では、標準/中庸(level 3)で維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 95 から 97%とする

#### ステージ 2

地温: 20 から 22°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを少し下げて、中庸(level 3)からやや乾燥(level 2)の範囲で、根が培地中をしっかりと行き渡るように促す。苗を枯らせないように注意する

肥料: リン酸の低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm (N)以下、EC:0.7 mS/cm 以下)の濃度で与える

#### ステージ 3

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: やや乾燥(level 2)の状態管理し、次の水やりまでに培地の表面が薄茶色になるようにする

肥料: 硝酸態肥料を与える。濃度はレート 2(100 から 175ppm (N)、EC: 0.7 から 1.2mmhos/cm)に上げる

矮化剤: 不要

#### ステージ 4

地温: 18 から 20°C

光条件: 53,800 ルクス(5,000 f.c.)を上限とする

水分: ステージ 3 と同様

肥料: ステージ 3 と同様

### 鉢上げから出荷まで

#### コンテナサイズ

12 から 13cm ポット: 1 本(1 プラグ)植え

17 から 23cm ポット/コンテナ: 3 本(3 プラグ)植え

#### 用土(培地)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.4、また EC は 1.2 から 1.5mmhos/cmとする

#### 低温処理(バーナリゼーション)

5°Cで、少なくとも 8 から 10 週間の低温処理が必要。低温処理のタイミングは、本葉が 10 から 12 枚ついた時点で開始する

#### 温度

分枝や株を充実させ、根をしっかりと形成させるため、温度が下がり、冬へ向かっていく作型の生産を行うことが重要である。温度が下がる冬に入る前に苗を徒長させないように注意する

#### 【春先以降/低温処理後】

昼間温度: 16 から 22°C

夜間温度: 10 から 15°C

#### 照度(光条件)

補足的な電照等は不要であるが、低温処理の後では開花生理の誘引に一定の効果がある

#### 日長条件との関係

低温処理されたアキレギアは、日長にはニュートラルである。低温処理後に 14 時間超の日長条件に置かれると、茎が伸張し(株ができる前に)花が早く来てしまうことがあるので注意する

#### かん水

水分は、標準/中庸(level 3)を維持する。極端な過湿、乾燥はともに避ける。越冬および低温処理の期間中は、根への損傷や防疫上の点からも、乾燥ぎみの管理を続ける

## 肥料

レート 3(175 から 225 ppm(N),EC: 1.2 から 1.5mS/cm)の濃度で硝酸態肥料を与える。

※ 越冬後、春先には株の生育を促すよう一時的に濃度の高い肥料(EC: 1.3 から 1.5mS/cm)を与える

## 矮化剤(PGR)

(低温条件下で生産されているのであれば)概ね矮化剤は不要である。必要であれば、ウィンキー・シリーズには B ナインが有効である。移植後 10 から 14 日をめどに 2,500ppm を散布する。必要に応じて、温度や光のレベル、また生長の具合を見ながら、だいたい 2 週間にもう一度散布する

## ピンチ

ピンチは不要である

## スペーシング

隣の株の葉が触れはじめたら、スペースをとるようにする

## 平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 7 から 8 週

移植から開花まで: 36 から 40 週

※ 288 穴トレイから移植され、適切な日長条件と 16 から 22℃ の温度範囲で管理された場合

播種から開花まで: 42 から 46 週

※ 288 穴トレイから移植され、適切な日長条件と 16 から 22℃ の温度範囲で管理された場合

## 一般的な作型

播種: 6 月中/下旬 → 開花: 4 月下旬から 5 月上旬

【ただし、北西ヨーロッパのような気候条件において】

## 病例等

害虫: アブラムシ、ハダニ、ハモグリ、ホワイトフライなど

病気: スクレロティニアによる褐腐病など

## 定植場所や配置について

- ウィンキー・シリーズは耐寒性宿根品種。アメリカ USDA の耐寒性指標ではゾーン 3-8(最低温度マイナス 40℃)
- 花壇定植の場合は、水はけのよい土に 20 から 25cm の株間で植えつける

## 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

**EC 値について:**EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合もあります。